

指定管理者評価シート

事業名	札幌コンサートホール運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	-----------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌コンサートホール	所在地	中央区中島公園1番15号
開設時期	平成9年7月	延床面積	20,746.14㎡
目的	音楽の鑑賞その他音楽に関する活動の場を提供すること及び音楽に関する事業を行うことにより、音楽芸術の振興及び音楽を通じた国際交流の推進を図ることを目的とする。		
事業概要	ホールやリハーサル室等、施設の管理運営。音楽芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	大ホール、小ホール、大リハーサル室、小リハーサル室A、小リハーサル室B		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 札幌コンサートホールは札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、音楽芸術の振興及び音楽を通じた国際交流を図る多様な事業を引き続き実施していく等のためには、指定管理者には専門的な知識や経験、幅広いネットワークが必要となる。また、管理運営にあたっては長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などを特に必要とするほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行うことが必要であることなどから、非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和6年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1) 統括管理 業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 今期指定管理より財団の中期経営計画を定めるとともに、当ホールの管理運営については次の6つの基本方針を策定している。 ①「質の高い音楽を鑑賞できる機会の提供」 ②「誰もが気軽に音楽を楽しめる、愛されるホールへ」 ③「札幌の音楽文化の未来を見据えた育成、支援」 ④「他分野との連携を広げ、札幌の音楽文化をあらゆる分野へ」 ⑤「利用者の声を反映し、利便性の高いサービスを提供」 ⑥「安心・安全で、持続可能な社会に貢献できる施設運営」 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ▼ 「札幌市の公の施設として、公平性を重視した運営を行う」という方針を策定し、条例・規則等に基づく公正な利用申込機会の提供や、音楽専門家などの学識経験者も含む貸館審査委員会による公平・公正な審査を実施した。 ▼ 施設申込は、公平性を重視した一斉受付を行う他、先着順による随時受付に移行後は、ホームページで空き状況を公開し、平等かつ公平な利用機会を提供した。 ▼ 札幌市の音楽文化の振興、発展のために重要とみなされ、市民の要望の強いアーティスト等の公演や、長期間の準備期間が必要となる公演については、一般利用に先立っての申請が可能な制度に従い、貸館審査委員会に諮り対応した。 ▼ 不当な差別的取扱防止のための取組として、オンライン動画を活用した職場内研修を実施して合理的な配慮に関して学ぶとともに、大ホール公演時にはダイバーシティ要員として1名のレセプションistを追加配置し、日々の公演においても障がいのある方に対する配慮に取り組んだ。 ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼ エネルギー管理標準(平成18年制定、令和3年改訂)の規定に基づき、省エネルギーに取り組んでいる。省エネルギー推進委員会を設け、定期的に省エネルギー推進活動の検討を行っている。 ▼ 令和4年度に変更した北海道電力との需給契約電力(高圧)を1000KWで維持し使用電力の低減に努めた。 ▼ 設備委託業者の業務日誌などで使用量を日々確認し、省エネルギー化の推進を行っている。 ▼ 札幌市環境マネジメントシステムに則り、各種報告を行った。	中期経営計画の策定により当財団が管理する各施設が共通の目標を持ち、連携がしやすくなった。 また、ホールの基本方針に基づき、施設の設置目的を実現するための行動指針とすることができた。 条例や規則、要領等に基づいた公平な利用機会の提供に努めることができた。 また、大ホール公演時に追加のレセプションistを配置することで、障がいのある一般来場者に対する日常的な合理的配慮に取り組むことができた。 日常的に使用状況を確認し、実施可能な省エネルギー化を進め、電気・ガス使用量の削減を図った。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 利用者や運営協議会での意見をもとに継続的に業務改善を図り、関係者間で情報共有を行っているほか、有識者の助言を事業に反映させるなど、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。また、研修では、職員的能力向上や合理的配慮の取組を実践するほか、施設設備の専門家などから助言を受けるなど施設の平等利用と質の高いサービス提供、施設管理者としての知識の向上に務めている。加えて、従来より、継続して省エネルギーのための取組を実践しており、環境と経費削減の両面から効果を上げている。以上のとおり、本市の要求水準を満たす適正な運営管理を行っている。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	利用者や運営協議会での意見をもとに継続的に業務改善を図り、関係者間で情報共有を行っているほか、有識者の助言を事業に反映させるなど、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。また、研修では、職員的能力向上や合理的配慮の取組を実践するほか、施設設備の専門家などから助言を受けるなど施設の平等利用と質の高いサービス提供、施設管理者としての知識の向上に務めている。加えて、従来より、継続して省エネルギーのための取組を実践しており、環境と経費削減の両面から効果を上げている。以上のとおり、本市の要求水準を満たす適正な運営管理を行っている。			
A	B	C	D								
利用者や運営協議会での意見をもとに継続的に業務改善を図り、関係者間で情報共有を行っているほか、有識者の助言を事業に反映させるなど、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。また、研修では、職員的能力向上や合理的配慮の取組を実践するほか、施設設備の専門家などから助言を受けるなど施設の平等利用と質の高いサービス提供、施設管理者としての知識の向上に務めている。加えて、従来より、継続して省エネルギーのための取組を実践しており、環境と経費削減の両面から効果を上げている。以上のとおり、本市の要求水準を満たす適正な運営管理を行っている。											

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼ コンサートホール事業部長(支配人)を施設の統括責任者として配置している。また効率的な運営を行うため、責任体制の明確化を図るとともに、事業の特性を考慮した職員配置を実施している。

▼ 人事異動などにより変更となった業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。

▼ 基礎的、専門的な知識の向上のため以下の職員研修を実施、また、外部団体主催研修に職員を派遣した。

- ・4～6月 新採用研修、コンプライアンス研修
- ・5月 普通救命講習
- ・9～10月 クラシック研修
- ・9～10月 コンプライアンス研修
- ・9～11月 パソコン研修(Excel)
- ・11月 甲種防火管理新規講習
- ・11月 不当な差別的取扱や合理的配慮に関する研修
- ・12月 管理職マネジメント研修
- ・1月 ホール運営知識向上研修
- ・2～3月 情報セキュリティポリシー研修
- ・3月 ビジネスマナー研修

適切な職員配置を心がけることで、仕事の効率化を図るとともに、魅力ある主催事業を企画し、質の高い音楽鑑賞の機会を提供できた。

全職員対象のコンプライアンス研修を実施したほか、応急措置等、施設の安定的な運営に必要な研修や、不当な差別的取扱や合理的配慮に関する研修を実施することで、合理的配慮に対する意識を高めることができた。また、クラシックやホール運営知識向上研修等、より深い知識やスキルが習得できる研修を実施し、特に、新たに実施したホール運営知識向上研修では、大ホールの音響設計を手がけた豊田泰久氏を招き、ホールの最大の特徴である音響設計について学ぶことで、指定管理者として、施設に関する知識や管理運営に対する意識を向上することができた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ 火災などの災害に迅速に対応できるよう、年2回の防災訓練を実施するほか、危機管理マニュアルの見直しをすすめ、ミサイルの飛来等の対応を更新した。

▼ 財団内LANIによるグループウェアを活用し、事業部内、さらに財団全体で情報を共有している。また、財団共用の予算執行、決算管理等経理システムにより、経理事務を効率化し迅速な処理を行っている。

▼ コンサートホール単独のグループウェアも併せて活用し、職員のほか委託業務スタッフ(清掃、警備、設備、舞台、レセプションист)にも公演やホール内施設の詳細な情報について連絡事項の共有を図っている。接客の際に必要な細やかな情報が共有できるようにグループウェアの様式の更新を行っている。

▼ 朝礼の実施により、係ごとの業務連絡など日々の最新情報をホール職員内で共有できるよう取り組んだ。

▼ 役職者会議や各係会議を定例的に開催し、業務の進捗を確認するほか、ホールの諸課題についても検討を進め、改善に取り組んだ。

▼ 防火管理委員会および危機管理検討委員会を定例的に開催し、防火・防災管理の向上に取り組んだ。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 施設の安全運営に努め、専門技術・資格・経験を持つ人材を確保した。委託の際には、施設の安全と快適な利用に繋がるよう努め、委託者・受託者側双方に責任者を置き、監督と履行確認を行った。

再委託を行うにあたっては、指定管理の協定書に基づき札幌市の承認を受け実施した。

事業部及び財団全体で情報を共有。業務の円滑化に努め、事業部間の連絡においても効率化を図ることができた。

また、危機管理としては令和5年度に財団の管理施設で統一的なJアラート受信時の対応の検討を進め、令和6年度はコンサートホールにおいても危機管理マニュアルを改定し、危機管理水準を高めることができた。

高度な技術と知識を有する人材を確保することにより、常日頃の点検・設備等の実施とともに、突発的なトラブルに対し迅速に対応できる体制を整えた。また、委託業者との綿密な連絡・報告を活用することにより、施設を適切に管理することができた。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 令和6年 7月3日	・令和5年度事業報告 ・4月～5月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・第25代専属オルガニストの決定 ・施設見学会の開催 ・Kitaraギャラリー『The PMF Cycle』
第2回 令和6年 9月18日	・4～8月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・2024Kitaraアルザスワインの販売 ・Kitaraギャラリー『マイ・ガーデン』(札幌芸術の森美術館・連携事業) ・オルガニストCDを初めてストリーミング配信 ・鑑賞マナー啓発動画のエンタランス上映
第3回 令和6年 12月26日	・4～11月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・施設利用料金の値上げ ・演奏会付き防災訓練の実施
第4回 令和6年 3月19日	・4～2月の施設利用状況 ・令和6年度主催事業に関する報告 ・演奏会付き防災訓練の実施 ・施設見学会の実施
<協議会メンバー> ・地 域: 豊水地区連合町内会会長 ・利用者: キタラボランティア代表、オルガニスト、ピアニスト、音楽事務所代表 ・行 政: 札幌市市民文化局文化部長 ・指定管理者: 札幌コンサートホール支配人(コンサートホール事業部長)	

外部委員のさまざまな立場から有益な助言を得たことや、利用者や地域住民の声を把握できたことにより、管理運営上の課題の改善につなげることができた。

▼ 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (7月24日)	(1)各施設の重点取組事項について (2)使用料手数料、基準管理費用(プラザのみ)の調整状況の検討状況について情報共有 (3)予算編成時における文化部との連携について (4)札幌市文化芸術基本計画について(報告) (5)その他
第2回 (1月22日)	(1)今年度の予算執行見込みと事業実施状況 (2)次年度の事業展開について (3)その他協議事項 ・テラスレストランKitaraの都市公園使用料について ・レセプション料金、舞台技術料金の改定について ・Kitara改修工事の検討状況の進捗、改修工事時期の見通し (4)文化部協議事項 ・令和7年度札幌コンサートホール関係予算の概要 ・利用料金改定の概要

札幌市と連絡調整することにより相互の理解が深まり、課題解決への対応に繋がった。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。

▼ 現金や預金通帳及び印鑑、金券類は、分任出納員による厳格な管理を行い、内部監査などで定期的な確認作業を行っている。

▼ 現預金の入出金については、複数の職員による確認を実施し、不適切な処理が行われないよう厳しくチェックを行った。

財務・収支状況を明確に把握しながら、適正な資金管理を行うことができた。現金については複数の職員による管理を行い、事故の防止を図ることができた。

▽ 要望・苦情対応

▼ 要望・苦情については速やかに報告書を作成、ホール内で対応策を検討し、職員への周知を徹底した。また、札幌市の所管課に相談する必要がある要望や苦情があった場合は速やかに所管課に相談するとともに指示に従った。

公演に関する要望・苦情については、レセプションストとホール職員、主催者が連携を取り、状況に即し臨機応変に対処した。また、CS(顧客満足)会議やレセプションストとの月1度の会議を通じて、お客様から直接聞いたご意見や要望等の情報収集・把握に努め、サービス向上や施設設備面での改善を行った。

公式ホームページにはお問い合わせフォームを設け、要望や苦情等が寄せられた場合は、事実関係を迅速に確認し、電子メール等を通じて速やかな回答を行った。これら要望・苦情については、施設運営協議会や札幌市へ定期的に報告した。

お客様からの要望・苦情やその対応はグループウェアや文書で速やかにホール全職員に周知し、委託業者へは会議などを通じて情報共有を図った。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。

- ・事業日誌等
- ・管理業務に関する諸規定
- ・文書管理簿
- ・各年度の事業計画及び事業報告書
- ・収支予算・決算に関する帳簿
- ・金銭出納に関する帳簿
- ・物品の受払いに関する帳簿
- ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類

▼ セルフモニタリングについては、年間3,700名以上から回答が得られるように、コンサートの来場者や貸館利用者に対するアンケート調査を行った。調査にあたっては紙媒体のほか、WEBアンケートも活用した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。また、要望・苦情等の対応は運営協議会で報告のうえ、委員からの意見・助言を得て、改善を要するものについては対応できる体制を整えた。

▼ 事業等の報告や事業評価等については、協定の定めに応じて札幌市に提出をした。

4,259名の来館者及び利用者からアンケートの回答を得た。また、要望・意見はデータとして蓄積し管理・運営の業務改善に役立てることができた。

(2)労働関係 法令遵守、雇 用環境維持 向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無 などの安全衛生面を含む)		A B C D
	▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、プロパー職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、プロパー職員については別途給与規程を定め明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っており、財団LANにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。 ▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。 ▼ 産業医とともに労働災害の防止、職場環境の向上に努めるとともに、顧問弁護士とも委託契約を締結しており、心身の健康、労働・雇用関係等について相談に応じる体制をとっている。 ▼ 特別条項付36協定を締結するにあたり、法定の上限を下回る時間外労働の制限を設けている。また、定期的に行う役職者会議で職員の超過勤務時間を確認するとともに、適正な時間外勤務の執行に取り組み、職員の健康管理の増進及び仕事と家庭の調和の実現(ワークライフバランスの推進)に努めた。また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ3)として認証を受けているほか、4年計画で策定した次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。 ▼ 高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年(61歳)退職後に、希望者を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。 ▼ 労働災害や通勤災害の発生はなかった。	36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務分配等に取り組んでいる。 雇用環境については、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。 また、育児中の職員を対象に「育児休業」の利用を促進し、働きやすい職場環境構築に努めることができた。	労働関係法令は遵守されており、また、労働協定に基づいた業務の見直しにも努めている。 業務の性質上、時期による業務量の差があるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、育児休業制度の利用促進など様々な取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D
	▼ 日常における施設の維持管理については、来館者の安全を最優先に心がけ業務を行った。 ▼ 利用者に対しては、ホームページやパンフレット等において、必要な連絡先を記載するとともに、問合せフォームも用意することで問合せを受付できる体制を維持した。また、緊急時に対応ができるよう緊急連絡網を整備した。 ▼ 施設損害賠償保険は、全国公立文化施設協会で運営する公共施設用に設計されたものに加入し、万一の事故に対応可能な体制をとっている。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 清掃や警備等の建物管理業務、電気設備や昇降機等の建物保守にかかわる設備管理業務のほか、照明・音響・レセプションなど、専門性を要するホール業務については第三者への委託により実施した。 ▼ 施設内備付備品は4カ年の点検計画を作成し、計画に則って点検を行うことで適切な管理に努めた。また、オルガンやピアノ等の楽器については、専門保守業者の意見を参考にしながら適切な管理を行った。 ▽ 防災 ▼ コンサートホール消防計画に基づき、7月と1月にホール職員、常駐委託業者等を対象とする法定防災訓練を実施した。 ・7月は夜間の小ホール公演及び小リハーサル室A利用中にレストラン厨房で出火したことを想定し、ホール職員と常駐業者(17名)による総合訓練を実施。 ・1月は札幌市消防音楽隊と協力し、一般市民から参加を募り、コンサート中の火災を想定した演奏会付き防災訓練を行った(参加者数333名) ・火災報知器、消火設備点検については9月と3月に実施。なお、令和5年2月9日からの3年間、防火対象物点検報告特例認定を受けている。	来館者の安全を最優先とした施設の維持管理のほか、利用者の問合せ及び回答に対し迅速に対応できる体制を維持し、市民サービス向上に努めた。 施設が持つ機能を最大限に発揮し利用者の安全性を確保するため、計画的に保守点検を実施し、不良・危険箇所の補修を迅速行うことで利用者に対する安全、快適な環境を提供することができた。 公演中に火災が発生する想定のもとで訓練を行い火災及び危機に対する意識、対応能力の向上につながった。	来館者からの問合せに迅速に対応できる体制を維持するとともに、関係法令を遵守し、保守点検についても、適切に実施している。また、ホール職員と委託業者のほか利用者参加型の防災訓練などにも継続して取り組んでいる。 以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

(4)事業の計画・実施業務	▽ 音楽鑑賞事業		A B C D
	▼ オーケストラシリーズ 世界トップレベルのオーケストラを招へいし2公演を実施した。 ・ショパン国際ピアノコンクールで日本人として51年ぶりに第2位を獲得した札幌出身のピアニスト 反田 恭平と、彼がプロデュースし、ソリストとしても活躍する同年代の実力派アーティストと結成した管弦楽団ジャパン・ナショナル・オーケストラを招へいし、コンサートを開催。反田氏による力強い弾き振りとオーケストラのフレッシュな演奏で観客を魅了した。 ・令和4年の主催事業で好評を博したロンドン交響楽団と同楽団の新首席指揮者サー・アントニオ・パッパーノを招へいし、世界各国で活躍するピアニスト ユジャ・ワンをソリストに迎えてコンサートを開催。ラフマニノフのピアノ協奏曲とマーラーの交響曲で迫力ある演奏を披露した。 ▼ ソリストシリーズ ・ジャズ、クラシックなど、ジャンルの垣根を越えてソロ、トリオやオーケストラとの共演などで多彩な活躍をする国際的ピアニスト 小曾根 真を招へいし、スペシャル・ソロリサイタルを開催。オリジナル楽曲の他、ゲストに壺阪 健登を迎え、2台ピアノによるガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」などを披露した。公演翌日には札幌芸術の森と連携し、小曾根 真が講師となり「札幌ジュニアジャズスクール」の子どもたちに向けた特別ワークショップを実施し、世界的アーティストによる指導の機会を提供した。 ・鍵盤音楽の歴史的研究を重ねチェンバロ、フォルテピアノ、モダンピアノを弾き分けるアンドレアス・シュタイアーのチェンバロリサイタルを開催。Kitara所有のチェンバロで、クーランのパヴァーヌやシュタイアー自身が作曲したオリジナル楽曲などを披露した。 ・ビリオド楽器とモダン楽器両方の演奏で活躍するヴァイオリニスト アリーナ・イブラギモヴァと、ロン・ティボー国際コンクールで第1位を受賞したピアニスト セドリック・ティベルギアンを招へいし、デュオリサイタルを開催。ドビュッシー、プーランク、武満徹、シューマンの楽曲で長年にわたって活動を続けているデュオによる洗練された演奏を披露した。 ・リスト音楽院の開学150周年を記念して、第27回リスト音楽院セミナー講師3名によるガラ・コンサートを開催。ハープ、ピアノのソロ曲のほか、ハープ&ピアノ、2台ピアノなど珍しい編成でリストなどの作品を披露した。 ・リスト音楽院ヴァイオリン科主任教授を務め、世界で活躍するヴァイオリニスト クリストフ・バラティによるリサイタルを初開催。共演者には同音楽院教授のピアニスト ガーボル・ファルカシュを迎え、名手たちによる圧巻の演奏を披露した。	ジャパン・ナショナル・オーケストラ公演は前売りチケットで完売、ロンドン交響楽団公演では約1,600名の来場があり、お客様からも素晴らしい演奏に感動したと多くのお声をいただいた。ホールの素晴らしい音響を通して市民に世界一流の優れた演奏の鑑賞機会を提供することができた。 鍵盤楽器や弦楽器、そしてクラシックのみならずジャズといった多彩なジャンルの一流ソリストを招へいし、世界水準の演奏を市民に紹介することができ、来場者からは高い評価を得ることができた。加えて、財団他施設との連携により多彩で効果的な事業の実現を可能にすることができた。	著名なアーティストや地元の演奏家など様々な分野で活躍する出演者を選考、招へいし、上質な演奏を市民に提供していることは、来場者からも好評を博している。 また、親子が一緒に参加できるコンサートを継続的に開催している点は子どもの感性の涵養につながるとともに、保護者への音楽鑑賞機会提供の観点からも評価できる。 加えて、地元の学生等に演奏機会の提供を継続して実施しており、地域の音楽文化の発展に寄与している。 上記の他にも、多彩なプログラムを展開し、幅広い年代へ音楽鑑賞の機会を提供しており、本市の要求水準を上回る管理運営が行われている。

▼ 室内楽シリーズ

・当ホールが2005年から独自に招へいを続けるベルギーのカルテット ダネル弦楽四重奏団による19回目となるコンサートを2日間にわたり開催。1日目は出演者によるレクチャーと演奏で作品の理解を深め、2日目の公演では20世紀ロシア大作曲家をテーマとしたプログラムで、弦楽四重奏曲及び札幌出身のピアニスト 外山啓介を迎えピアノ五重奏曲を披露したほか、冒頭には札幌大谷大学学長の千葉 潤氏によるプレトークが行われた。また、当該楽団の公演は全国のホール5館と連携して他都市でも実施した。

・リスト音楽院セミナーと同時期に、ハンガリーを代表する若きアーティストを紹介する公演の5回目として、リスト音楽院を卒業後、ハンガリーの歌劇場でオペラ歌手として活躍するトポラーンスキー・ラウラのソプラノリサイタルを開催。地元ハンガリーを代表する作曲家による珍しい作品をはじめオペラアリアなど多彩なプログラムを披露した。

世界の第一線で活躍する音楽家から、将来の活躍が期待される若手アーティストまで、室内楽の多彩な魅力を広く市民に紹介することができた。

▽ 音楽普及事業

▼ ホール開放事業 Kitaraあ・ら・かると

ホール全体で、ゴールデンウィークの3日間にわたり子どもから大人まで家族で楽しむことができるイベント「Kitaraあ・ら・かると」を開催した。3歳、5歳から入場できるコンサートや、誰でも鑑賞可能な無料のロビーコンサート、市内中学校の吹奏楽部と合唱部による合同コンサートのほか、ホール見学ツアー、楽器づくり体験、また、新企画として地元調律師と連携して手作り小型オルガンに触れる体験コーナーなど、ホールや音楽に気軽に親しんでもらう機会を提供した。

ファミリー層を中心に多くの方が来館し、完売となる公演も多く、クラシック音楽鑑賞のほか、各種体験を通じて、市民に音楽及びキタラを身近に感じていただくことができた。

▼ オルガン事業

・国内最大級の規模を誇るパイプオルガンと、専属オルガニスト制度を活用し、土日、祝日に低料金で市民が気軽に楽しめるコンサートを6公演実施した。

・専属オルガニストのデビューリサイタルから、市内高校合唱部との共演による「〈JAL presents〉クリスマスオルガンコンサート」など、多彩なプログラムを実施した。

・「Kitaraのバースデー」では、赤ちゃんを含む未就学児が入場可能な〈まずはここから公演〉とオルガン好きな方に向けた〈もっとじっくり公演〉の2公演を実施し、幅広い層を対象にオルガンの魅力を伝えた。

・令和6年度から実施した冠スポンサーによるオルガン公演の「〈JAL presents〉クリスマスオルガンコンサート」では、冠スポンサーであるJALベルスターによるハンドベルのプレコンサートを開催した。

専属オルガニストを活用したプログラムから未就学児も楽しめるプログラムまで、幅広い内容でオルガンファンの増加に努めた。また、スポンサーと協力した企画を実施し、観光分野との連携を図りまちの活性化に寄与することができた。

▼ 札幌オーケストラシリーズ

・道内唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団と連携し、「きがるにオーケストラ」、「沼尻 竜典作曲 歌劇『竹取物語』」、「Kitaraのクリスマス」、「Kitaraのニューイヤー」の4公演を実施した。特に、「竹取物語」は、びわ湖ホール、iichiko総合文化センター、やまぎん県民ホール、当ホールの4館での共同制作でプロジェクトマッピングを駆使した演出による日本語のオペラを上演する新たな試みとなった。

また、財団他施設との連携として、市民交流プラザとオペラに関する公演を対象としたスタンプラリー「オペラではごきキャンペーン」を実施し、オペラの拡大・普及に努めた。

他ホールとの共同制作のほか、地元演奏家の活用等、多彩なプログラムを提供し、地元オーケストラの魅力を存分に伝えることができた。

▼ Kitaraアフタヌーンコンサートシリーズ

気軽に音楽を楽しんでもらうため、土日や休日に低料金で楽しむことができるコンサートを4公演「アンセツトシス～演奏と創作、新進気鋭のピアノデュオ～」、「ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット」、「若山社中～里神楽で魅せる江戸の華やぎ～」新野 将之 パーカッションコンサート～知っているようで知らない打楽器の世界～」を実施した。内容もクラシック、ポピュラー、里神楽まで、幅広い内容とし、どなたでも楽しめる公演とした。

様々なジャンルの公演提供のほか、演奏の合間に出演者のトークによる楽器や作品の魅力の紹介など、音楽の魅力を伝えることができるプログラムとなった。また、館内レストランと連携した割引特典も行い、コンサート以外の楽しみも提供できた。

▼ 地元音楽家・音楽団体との活動支援・連携事業

・北海道教育大学及び札幌大谷大学と連携し、各校から推薦を受けた卒業生・在校生による「若い芽の音楽会」を実施した。ソロやアンサンブルなど、優秀な若手演奏家による演奏を披露した。
・市民から公演企画を公募する「Kitaraアーティスト・サポートプログラム」では、4団体の応募があり、室内オーケストラとバレエダンサーのコラボレーションによる公演、ピアノ演奏と「愛」にちなんだお話付き公演の2企画を採択し、地元音楽家たちが創意工夫を凝らしたコンサートを開催した。
・札幌音楽家協議会とのプロジェクト「札幌の音彩(ねいろ)Ⅱ」では、国内の様々なオーケストラと共演を重ねる札幌出身の横山 奏の指揮で室内オーケストラと女声合唱の演奏を実施した。

地元の学生に学びの成果を披露する場を提供し、次世代の演奏家育成を図った。また、地元音楽家の活動を支援し、地域の音楽文化の活性化と演奏家自身のレベルアップに寄与することができた。

▼ 社会包摂事業

・0歳からのコンサート
全国で子ども向け公演の企画・出演実績のあるピアニスト 中川 賢一が考案した絵本の朗読と演奏を合わせたバラエティ豊かなプログラムで、0歳から鑑賞可能な親子で楽しめるコンサートを開催した。チケットは完売し、当日は親子連れで大変賑わった。

0歳からのコンサートでは、子ども達の興味を引き付けるため、大型スクリーンを使って視覚的にもわかりやすくなるよう工夫し、親子で音楽を楽しむ機会を提供することができた。

・令和6年度障がい者向け文化芸術体験事業(子どものためのKitara参加型音楽会)
身体障がい、知的障がい、聴覚障がいのある児童を対象にピアノ、フルート、パーカッションの演奏に歌を交えた音楽会を3公演実施した。障がいの違いや程度に合わせて、手話を交えたり、楽器に触れて振動を感じたり、体全体で音楽を楽しむコーナーを作るなど内容を工夫した。また、指導者の育成も視野に入れ、地元演奏者及び大学関係者の見学会も実施した。

子どものためのKitara参加型音楽会では、毎年、事業内容を検証し新たなプログラムへ改良を加えており、今年度も障がいの有無に関わらず、音楽の楽しさを感じ取ってもらえる場を創出することができた。

▽ 教育・人材育成事業

▼ エデュケーションプログラム

子どもたちの感性を伸ばし能力を引き出す事業として、人気の高い未就学児童から入場できるコンサートのほか、札幌市教育委員会と連携してKitaraファースト・コンサートを実施するなど、成長に応じて継続してホールに足を運んでもらえるようなプログラムを展開した。

ホールで本格的な生の演奏に触れる機会の提供は、子どもたちの豊かな感性や想像力を育むことに繋がった。また、若年層に対するクラシック音楽の普及・振興にも寄与するものとなった。

▼ アウトリーチ事業

専属オルガニスト及び地元演奏家が移動可能なポジティブオルガンとともに赴き、生の音楽の魅力と楽しさを伝える事業を2小学校(平岡南小学校、小野幌小学校)で実施した。小野幌小学校では、札幌芸術の森と連携し、野外美術館の紹介や森の動物にちなんだ作品を演奏し、音楽と美術を関連付けたプログラムを提供した。

オルガン伴奏による校歌の斉唱、音色が何を表しているのか考えるクイズなど、参加型プログラムにより、音楽への親近感の創出、オルガンによる「生」の音楽を楽しむ機会の提供等、音楽が持つ魅力を子ども達に届けることができた。

▼ セミナー事業

ハンガリーの伝統ある世界的な音楽教育機関「リスト音楽院」と連携し27回目となる「リスト音楽院セミナー」を開催した。世界的な音楽家による指導を直接受けられるセミナーとして全国各地からの参加があった。ピアノコースに加えて、今年はヴァイオリンコース、ハーブコースを新設し、道内を中心として幅広い年齢層の参加があった。セミナー最終日には、講師の推薦を受けた受講生が出演するコンサートを開催し、2026年にブダペストで開催されるコンサートに派遣される最優秀受講生のほか、審査員特別賞1名が選出された。

開学150周年を記念し講師3名によるガラコンサート及びピアノ、ヴァイオリンの講師による特別コンサートを2夜連続で開催し、歴史あるリスト音楽院の開学を祝したプログラムを実施した。音楽院との協力体制によって、若手演奏家が世界的な音楽家の指導を受けられる機会を提供したほか、札幌とハンガリーとの文化芸術交流にも寄与した。

▽ 全国ホール等とのネットワーク事業

- ・びわ湖ホール、iichiko総合文化センター、やまぎん県民ホール、当ホールの4館の共同制作公演で、「沼尻竜典作曲 歌劇『竹取物語』」を開催した。
- ・第24代札幌コンサートホール専属オルガニストのウィリアム・フィールドینگを派遣し、サントリーホール及びザ・シンフォニーホールでオルガンコンサートを実施した。
- ・第25代札幌コンサートホール専属オルガニストのファニー・クソーを派遣し、武蔵野市民文化会館、京都コンサートホールでオルガンコンサートを実施した。
- ・サントリーホール、神奈川のサルビアホール、アクロス福岡、武蔵野市民文化会館、滋賀のびわ湖ホールの5館と連携し、ダネル弦楽四重奏団の日本ツアーを実施した。
- ・ハンガリーの俊英シリーズで来日したアーティストと地元音楽家との交流を図るため、札幌音楽家協議会、ハイメスと連携し国際交流コンサートを開催した。
- ・すみだトリフォニーホール、京都コンサートホール、アクロス福岡、所沢ミューズ、新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)と年2回、コンサートホール企画連絡会議を開催し、情報交換を行った(7月:新潟、2月:東京)。

全国の類似ホール等と共同での事業企画制作及び情報交換により、海外からのアーティスト招へいを含めた多様な音楽プログラムを実施し、事業費用の削減も図ることができた。

専属オルガニストの派遣では、札幌コンサートホールのPR及び全国他ホールとの交流促進にも繋がったほか、当ホールが推進しているオルガン事業も紹介することができ、国内におけるオルガン音楽の普及貢献にも寄与することができた。

▽ その他コンサートホールの設置目的を達成するために必要な業務

▼ オンラインの活用事業

Kitaraアーティスト・サポートプログラムやリスト音楽院セミナーの応募方法について、郵送での申し込みのほかにオンラインフォームでの申し込みを実施した。また、令和6年度障がい者向け文化芸術体験事業(子どものためのKitara参加型音楽会)では、身体障がいを持つ児童対象公演でKitaraへ赴くことが困難な学校に対してオンライン配信を行った。

障がい者向け文化芸術体験事業では、学校からの要望を踏まえ当初予定していなかったオンライン配信を実施したため、準備や対応に苦労した。今後も参加校から要望があり実施する場合は、早い段階から運営体制について検討したい。

▼ 他事業部との連携

- ・全事業部と連携事業を実施することができた。
- ・札幌市民ギャラリーとの連携(Kitaraのポジティブオルガンを使って専属オルガニストと岩見沢出身のフルーティスト 按田 佳央理によるお話付きの無料コンサートを市民ギャラリーで実施)
- ・札幌市教育文化会館との連携(札幌ではおよそ20年ぶりとなる薪能を石山緑地で開催し、「誰もが楽しめる新しい薪能」をコンセプトに、能演目とクラシックとのコラボレーションを披露)
- ・芸術の森事業部との連携(小曾根 真によるジャズワークショップ、芸術の森美術館との小学校へのオルガンアウトリーチ等の実施)
- ・市民交流プラザとの連携(オペラではしごキャンペーンの実施)
- ・館内のKitaraギャラリーでは芸術の森美術館と連携した展示企画を実施した。

それぞれの特色を活かした企画を事業に組み入れることで、来場者に新たなジャンルの芸術との出会いをもたすことができ、各施設のお客様に当ホールの魅力を提供することができた。

▼ 施設見学の実施

13件 424人

市民にコンサートホールへの関心を抱かせホールの利用促進を図るため、大小ホールなどを紹介する施設見学を実施した。

▼ 施設見学会の実施

3回 153人

コンサートホールのPR及びKitaraファン拡大のため施設見学会を実施した。

施設見学会は全3回とも定員以上の応募があり抽選となるなど、多くの市民から興味関心を持っていただくことができた。

▼ 公演チケット及びオリジナルグッズの販売

Kitaraチケットセンターを設置し、窓口、電話及びウェブでのチケット販売のほか、新たにウェブ購入における英語化対応も開始し、お客様のチケット購入環境の整備を図った。

また、ホールにより親しみを感じていただけるよう制作したオリジナルグッズや季節限定のワインの販売を行ったほか、新たにストリーミング配信を導入し、専属オルガニストのCD収録曲を購入できるようにした。

チケット販売では令和5年度にはキャッシュレス決済、令和6年度は英語化対応と顧客サービスの向上に努めている。近年のインバウンド増加を踏まえ、観光客による当ホール公演鑑賞の誘致を図り、チケット販売の増加に繋げていきたい。

オリジナルグッズは来館の記念として購入する方も多いことから、より魅力的な商品の開発に努め、ホールのPRとともに収益増加も図っていききたい。

▼ ホール支援組織「Kitaraボランティア」との連携

主催事業の補助や施設見学ツアーの案内、KitaraClub会員へのダイレクトメール発送作業等、多岐にわたる業務においてKitaraボランティアと連携し、市民により充実した事業及びサービスの提供を行った。

R6ボランティア人数:102人

開館から初めてKitaraボランティア登録者数が100名を超えた。人数の増加により活動内容の充実が図れたほか、コンサートの鑑賞以外に芸術文化を楽しむことができる機会の提供にも繋がっているものと考えている。

	▽ 補助金交付の対象となる自主事業の実施に関する業務 ▼ Kitaraファースト・コンサート Kitaraファースト・コンサートでは、札幌市内全小学6年生に加え、近隣8市町村の小学6年生 計約17,000人を無料招待し、オーケストラとオルガンの演奏を鑑賞する機会を提供した。(6日間11公演実施) ▽ パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF) 世界の若手音楽家を育てるPMFの主旨に賛同し、(公財)PMF組織委員会が当ホールで実施する公演等を共催し、令和6年度は大・小ホールで計17公演で11,446人の来場者を獲得した。また、PMFと当ホールそれぞれの会員組織である「PMFフレンズ」と「Kitara Club」双方の会員に向けて、それぞれの主催公演の割引料金を適用した他、Kitaraギャラリーにて展示企画「The PMF Cycle」を実施し、世界中の若き音楽家たちを羽ばたかせてきたPMFの活動を紹介することで相互協力した。また、オリジナルグッズをチケットセンターで取り扱った。	プロのオーケストラとパイプオルガンの演奏を聴くことで、学校の授業では味わえない生の音楽から生まれる感動を届けることができた。 国内外の若手アーティストが集まる音楽の祭典を共催し、多くの市民にお楽しみいただいた。また、展示企画「The PMF Cycle」を実施し、PMFとの協力体制を強化し、ホールの設置目的である音楽を通じた国際交流の推進に寄与することができた。	
--	--	--	--

(5)施設利用
に関する業
務

▽ 利用件数等

		R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績
大ホール	件数(件)	277	297	293
	人数(人)	246,057	315,000	273,417
	稼働率(%)	83.7	86.0	85.9
小ホール	件数(件)	251	260	254
	人数(人)	49,501	60,000	44,565
	稼働率(%)	71.2	76.0	74.3
大リハーサル室	件数(件)	299	284	302
	稼働率(%)	76.7	73.5	78.8
小リハーサル室A	件数(件)	295	221	326
	稼働率(%)	73.2	58.5	78.8
小リハーサル室B	件数(件)	381	287	401
	稼働率(%)	86.2	71.0	90.0
総入場者数(人)		295,558	375,000	317,982

▽ 不承認0件、取消し16件、減免0件、還付11件

▽ 利用促進の取組

▼ 過年度から継続して施設の空き状況のホームページ公開やリハーサル室のWEB申請受付を行ったほか、老朽化や劣化が目立つ備品の更新を行い、令和6年度は大ホール保管分の演奏者用椅子、コントラバス椅子、指揮台1台の更新を行った。

大・小ホールは全ての貸室において前年度以上の稼働率となり、大小ホールについては前年度よりも目標値に近づくことができた。加えて、各リハーサル室については、目標値よりも大幅に高い値となり、令和3年度より開始したWEB申請フォームによる、リピーターからの申請が定着してきたと考えられる。最後に総入場者数については、特に大ホールにおいて、全国規模の大会やコンクールの会場となったことから前年度より向上し、コロナの影響がはじまった令和元年度以降ではじめて30万人を達成できた。

A	B	C	D
総入場者数は要求水準を下回っているものの、前年度を上回っている。また、稼働率については、大ホール、小ホールともに、計画値には至らなかったが、前年度より大幅に上昇している。このほか、施設予約の利便性向上に向けた取組を継続することで、リハーサル室の稼働率が計画値を大幅に達成した。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			

(6)付随業務	▽ 広報業務		A	B	C	D
	▼ 公式ホームページ、広報誌「KitaraNEWS」等を活用した情報発信 公式ホームページでは施設や公演、チケットの情報ははじめ、事業を詳しく紹介する特設ページを公開し、集客増加を図った。また、ウェブアクセシビリティは適合レベルAA準拠を達成している。 令和5年度にリニューアルした広報誌「KitaraNEWS」では、引き続き、市民に関心を持ちコンサートに足を運んでもらえるよう出演者へのインタビュー記事等を掲載し、情報発信に努めた。 ホームページアクセス件数:887,568件 KitaraNEWS発行部数:のべ144,000部(年6回発行) ▼ より多くの市民に届く広報展開 市民に目が届きやすい、テレビや新聞等のマスメディア及び地下鉄車内広告を利用してPRを行った。また、ラジオ番組では職員自らが情報発信者となり、事業の魅力のアピールした。 比較的若年層の利用が多い公式SNSアカウント(X、Instagram)及びKitaraアプリも積極的に活用して、幅広い世代に向けた情報発信を行った。 子ども向け事業については、札幌市小中学校校長会、札幌市PTA協議会に協力を依頼し市内小中学校へちらしを配布したほか、小学生向けの新聞への広告掲載を行った。 また、市役所広報番組及び市内で開催される観光イベントと連携し相互PRを実施した。 主な広報実績 ・テレビCM放映:4回 ・ラジオ番組でのPR:12回(月1回放送) ・新聞広告掲載:2回 ・地下鉄駅構内電照広告の掲出(年間) ・地下鉄ドアツインステッカー掲出:2回 ・地下鉄車内ドア横額面ポスター掲出:3回 ・地下鉄駅構内ポスター掲出:24回 ・SNS広告:11回 ・市内小中学校へのちらし配布:小学校7回 中学校9回 ・市内小学生全員に配布される新聞への広告掲載:2回 ・札幌広報番組等でのPR:3回 (「いい人いい街#まいにち金メダル」、「BRUTUS×札幌発の観光Webマガジン」、札幌市観光・MICE推進部のSNSアカウント「Visit Sapporo」) ・市内で開催される観光イベントと連携した広報:2回 (ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo、さっぽろ雪まつり)	ホームページ、SNS及び広報誌では市民に興味を持っていただけるような内容を掲載し集客に努めた結果、チケット販売収益が目標値を超えた。 今後も来場者アンケート等から広報効果測定を行い、多様な広報媒体の中から対象に応じた効果的なPRに努め、チケットの販売促進を図っていく。				アプリを使ったサービスを含む、多様な情報発信に努めており、テレビCMや地下鉄車内への広告掲出のほか、若年層への訴求力が高いソーシャルメディアやインターネットなどの媒体を積極的に活用している。特に公式ホームページは、特設ページの公開など、市民が興味を持つような工夫を行ったことで、前年度を上回るアクセス数を獲得しており、高く評価できる。 また、KitaraClubやKitaraアプリ会員の新規入会促進を図り、新たな入場者を獲得するほか、特典を追加するなどスポンサー制度の見直しを行い、新規スポンサーの獲得に成功している。 以上のとおり、本市の要求水準を上回る管理運営が行われている。

▼ 財団他施設との広報連携

相互の施設でのちらし配架のほか、市民交流プラザとは「オペラではしごキャンペーン」の事業連携を通じて、公演会場でのブースの設置等、共同してPRに努めた。また、KitaraClub会員へ他施設の公演ちらしを送付、芸術の森美術館入館料の優待割引を設ける等、新たなファン層の拡大を図った。

他施設との広報連携により、クラシック音楽になじみのない層にも事業PRすることができたほか、Kitaraファンに対しても広く文化芸術の魅力を伝えるきっかけを作ることができた。

▼ ホールスポンサー制度

ホールスポンサー区分及び特典の見直しを図り、ゴールドスポンサーはオルガン公演への企業名の冠を付ける特典を新設した結果、ゴールドスポンサー2社の協賛をいただくこととなり、事業の収支改善に寄与することができた。

また、冠オルガン公演では、スポンサーと一体となった公演演出も行うことができ、コンサートに新たな魅力を付加することができた。

(R5) (R6)

ゴールドスポンサー(協賛金100万円): 0社 → 2社

シルバースポンサー(協賛金50万円): 7社 → 5社

スポンサー制度の改定により、新たにゴールドスポンサー2社に支援いただけることとなった。引き続き新規スポンサー獲得に励むとともに、スポンサー企業と協力し相互の魅力向上を図ることで、スポンサー制度のメリットを実感いただけるよう努める。

▼ 専属オルガニストの配置

リヨン国立高等音楽院より推薦を受けたファニー・クソーを第25代札幌コンサートホール専属オルガニストとして採用し、ホールの主催公演や外部公演への出演に加え、教育事業にも参画した。

専属オルガニストによる多彩なプログラムにより当ホールのオルガンの魅力を引き出す公演を多数実施することができた。また、道外にも広く優れたオルガン音楽を紹介することができた。

▽ その他コンサートホールの管理業務に付随する一切の業務

▼ 会員組織の運営

(ア) KitaraClub (有料)

友の会組織「KitaraClub」会員に向けて主催事業のチケット先行販売や割引等の特典提供を行い、チケット販売を促進した。また、人気の高い公演の先行販売特典の周知を図った入会促進PRも行い会員増加に努めた結果、前年度比で270件の入会増があった。

(R6:新規入会 前期556件／後期97件)

(R5参考:新規入会 前期275件／後期108件)

(イ) Kitaraアプリ会員 (無料)

主催事業チケット発売情報をはじめ、施設に関する情報、主催事業やクラシックにまつわるコラムを配信。毎年2,000～2,500件の入会があり、会員数は1万人を超えている。

また、より特典内容が充実している有料会員制度の魅力についてPRを実施した。

(R6:新規入会2,451件)

(R5参考:新規入会2,068件)

「KitaraClub」会員である特典に特化したPRが会員増加に繋がったものと考えられる。今後も会員特典等、よりわかりやすく効果的な会員募集PRを展開し、会員の増加を図っていく。

Kitaraアプリ会員は若い世代を中心に気軽に加入できるものとして一定の会員数が増加しているが、より特典内容が充実している有料会員への移行も視野にいれた情報発信を図り、会員数の増加に努めていきたい。

▼ 秋の中島公園コミュニティ・フェスタ

中島公園の魅力を高める取り組みとして、札幌市公園緑化協会や札幌市みどりの推進部、中島公園周辺の施設や近隣の事業者と中島公園魅力アップコンテンツを試行、ホールの前庭を活用して、キッチンカー等の出店に協力した。

秋の紅葉時期に自然や芸術といった中島公園の魅力を総合的に楽しめる取組に協力することで、音楽ファンだけでなく、広く一般に施設をPRすることができた。

2 自主事業その他						
▽ 自主事業	▼ 売店事業 売上高 8,039千円	グッズ事業、自販機事業ともに、前年度に比べ売上が増加した。 レストランについては、売上等については、定期的に確認し、意見交換を行うことで、施設の集客・活性化等をはかることができた。	A	B	C	D
	▼ 自販機事業 売上高 1,649千円					
	▼ レストラン事業 貸館主催者への利用促進及びKitaraアプリ会員へのメニュー配信を積極的に行なったほか、期間限定メニューやカフェテリアでのアルザスワインの販売など集客増に努めた。 また、レストランの売上等について定期的に確認し、集客・活性化等について意見交換を行っている。					
	▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等					
	▼ 委託業務67件を市内に事業所を持つ企業に発注した。	委託業務の多くについて、市内企業を活用することができた。また、福祉施策として、令和6年度より障がい者を1名雇用し、北海道障害者職業センターの助言を得ながら適切な職場環境を維持することができた。その他、障がい者福祉施設よりグッズを購入・販売することを通して、障がい者の活動を支援できた。	レストランや売店など、来館者及びホール利用者の利便性向上に資する各種事業が実施されている。また、市内企業の活用や障がい者の雇用を継続し、専門機関からの助言を受けながら、適切な職場環境の整備に努めるなど、本市が推進する施策に配慮した運営を継続して実施していることも評価できる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
▼ 障がい者を1名雇用し、福祉施策に取り組んでいる。						
▼ 障がい者福祉支援施設よりオリジナルグッズを仕入、販売した。						

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

		A B C D			
実施方法	▼ 一般来館者・施設見学会参加者 施設に関するアンケート用紙をエントランスホールに設置、一般の来館者(演奏会入場者以外も含む)を対象として、来館目的や回数、ホールで聴いてみたい音楽ジャンル、施設への要望などについて調査した。施設見学会でもアンケートを実施し、来館経験や見学会への参加理由を調査し、施設への興味関心等を把握した。 回答数250件 ▼ 貸館利用者 大・小ホールやリハーサル室などの貸館利用者・主催者には、アンケート用紙を手渡しすることとし、顧客満足度や意見・要望を収集した。 回答数10件 ▼ 主催公演入場者 主催公演についても入場者にアンケートを実施し、公演内容の評価などを把握し、今後の主催公演の企画に生かしている。 回答数3,757件	お客様からのアンケート結果は随時集計・データベース化し、職員間で共有することでその後の対応に活かすよう努めている。 アンケートの内容については、運営協議会で報告し、各委員から意見を聞くとともに、鑑賞マナー動画を作成する等、課題解決に取り組んだ。			
結果概要	・施設の設備、スタッフの対応、主催事業などに対して前年度に引き続き高い評価であった。 ▼ 一般来館者・施設見学会参加者 エントランスホールに設置しているアンケートに回答した方、及び施設見学会参加者の総合的な満足度は96.4%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)、ホールスタッフの接遇に対する満足度は96.4%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)であった。 ▼ 貸館利用者 大・小ホールやリハーサル室などを利用した貸館利用者・主催者からのアンケートでは、総合的な満足度は100%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)、ホールスタッフの接遇に対する満足度は90%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)であった。 ▼ 主催公演入場者 主催公演入場者の施設に対する総合的な満足度は97.2%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)、ホールスタッフの接遇に対する満足度は97.0%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)であった。 ▼ 全体では、施設の総合的な満足度は97.1%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)、ホールスタッフの接遇に対する満足度は96.9%(「とても満足」、「満足」、「普通」の合計)の高評価であった。	施設の総合的な満足度、ホールスタッフの接遇に対する満足度ともに高水準にある。また、来館者からのアンケート結果を施設運営に生かしているほか、寄せられた意見や要望に対して、施設内で迅速に共有を図った上で、適切に対応していることは評価できる。 以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
利用者からの意見・要望とその対応	お客様からのお声が多かった鑑賞マナーについて、マナーの向上を啓発する動画を作成し、エントランスホールにて上映を開始した。今後も皆様が快適に楽しめる鑑賞環境を維持していきたい。				

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R6年度計画	R6年度決算	差(決算-計画)
収入	966,269	990,211	23,942
指定管理業務収入	921,564	943,309	21,745
指定管理費	606,073	632,301	26,228
利用料金	173,347	179,794	6,447
その他	142,144	131,214	▲ 10,930
自主事業収入	44,705	46,902	2,197
支出	1,012,055	1,002,900	▲ 9,155
指定管理業務支出	969,436	962,435	▲ 7,001
自主事業支出	42,619	40,465	▲ 2,154
収入-支出	▲ 45,786	▲ 12,689	33,097
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 45,786	▲ 12,689	33,097

▽ 説明

▼ 指定管理業務収入における指定管理費について、令和6年4月～令和7年3月の光熱費高騰および人件費の高騰による管理費の改定により、26,228千円の増加となった。

▼ 指定管理業務収入における利用料金収入については、大ホールの施設利用料金が計画よりも6,542千円増加したほか、各リハーサル室の利用の増加により計画よりも1,362千円増加するなど、合計で計画対比6,447千円増加した。

▼ 指定管理業務収入におけるその他収入については、チケット等販売収益等が増加した反面、令和6年度は文化庁の文化芸術振興費補助金による助成金が申請額より14,067千円減額となったことから、計画対比で10,930千円減となった。

▼ 自主事業収入については、他都市参加に伴うKitaraファーストコンサート補助金増加等から計画対比で2,197千円の増加となった。

▼ 指定管理業務支出については、SNS広告の導入等により、広告料が削減できたことから、計画対比で合計7,001千円減少となった。

▼ 自主事業支出については、修繕が想定よりも少なかったことから、修繕費が計画対比622千円減少したほか、商品購入費が764千円減少するなど、計画より全体で6,520千円減少した。

R6年度計画は人件費の高騰に伴う委託費の増加等を見込み、45,786千円の赤字と計画したが、全国コンクールの会場となったことに伴う大ホール利用料金の収入増加及びリハーサル室WEB申請の定着等により、計画よりも高い結果となった。また、主催事業においても公益性・創造性の高い事業企画により、入場料収益・受講料収益などを増加させ、収入を確保することができた。

支出においては、主催事業に関して効果的な広報展開への移行を進めたほか、修繕や旅費交通費等の節減に努め、支出を抑えることができた。

以上の経営努力に加え、光熱水費等の高騰に伴う指定管理費の改定により、指定管理業務収入が増加し、計画より33,097千円赤字額を削減することができた。

A	B	C	D
人件費の高騰による委託費の増加等に伴い、R6年度計画では赤字額を45,786千円と見込んでいたが、光熱水費の増額分の補填として指定管理費が増額されたほか、広告費を削減するなど自主的な努力を行ったことにより、赤字額は抑制された。しかし、依然として10,000千円超の赤字となっていることから、収支均衡に向けた収入確保に一層努めていただきたい。			
また、支出の増については、光熱費単価の値上がりによる影響等、やむを得ない事情もあるものの、引き続き経費削減の取組を進めていただきたい。			

<確認項目> ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持 当財団の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。		適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対処した。 ▼ 情報公開請求はなかった。 ▼ オンブズマンについては、案件は生じなかった。 ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。		適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
令和6年度は、管理運営業務、主催事業の双方で、当財団の中期経営計画及びホールの基本方針の実現を目指し、利用者サービスの向上や安全な施設運営、経費削減や連携事業による新たなファン層の拡大等に積極的に取り組むことができた。 管理運営事業については、オンラインによる空き状況の公開やリハーサル単独使用のオンライン申込により利用者が申し込みしやすい環境の整備が定着してきたほか、一部の老朽化した備品も更新し、サービスの向上をはかった。 また、開館から27年が経過し、改めてホール建設時の技術や工夫を学ぶ職員研修を実施し、職員の知識や意識の向上に努めたほか、防災訓練の実施や危機管理マニュアルの改定など、安心・安全で持続可能な施設運営に取り組むことができた。 その結果、ホールを含む全貸室において、前年度以上の稼働率となったほか、入場者数もコロナ以前の水準である30万人を超えることができた。また、利用者のアンケート結果でも満足度において昨年度よりも高い評価となっている。 さらに、令和6年度は収支改善にも積極的に取り組み、チケット販売の強化、スポンサー制度の改定により、収入の増加を図ったほか、支出においても、各種費用が高騰する中、効率的な事業運営による費用の節減に努め、計画よりも大幅な収支の改善を実現することができた。	第5期(令和5～9年度)指定管理協定書及び当財団の中期経営計画の重点事項達成に向け、管理・事業の実施を行う。 管理運営業務については引き続き利便性の向上と安全性の確保に努めながら、令和7年度は新貸館システムを導入し、利用者の利便性向上を図る。また、施設利用料金等の改定については丁寧な案内に努め、利用者への周知を徹底する。 事業については、これまでの事業方針を重視しつつ目標達成に向けての事業展開を図っていく。 令和7年度は、キタラが道内のホールに働きかけて初のオーケストラ北海道ツアーを実施することで道内の音楽振興を図っていく。また、地元アーティストの積極的な活用に加え育成ワークショップ等も行い、若手アーティストの活動支援も推進していく。 財団他施設との連携も促進し、キタラやクラシック音楽が市民にとって親しみやすい存在となるよう、各施設の特色を活かした魅力的な事業を展開し、来場者の増加へと繋げていく。 継続事業については、オンライン技術の効果的な活用など時代の変化に応じた多様な芸術鑑賞スタイルを取り入れる工夫等も行い、より充実した事業内容を目指していく。 一方、今年度同様、収支改善にも積極的に取り組み、チケットの販売促進や新規スポンサーの獲得にも努めるほか、費用対効果を踏まえた支出を心がけていく。
【主催事業】 経費削減による収支改善を図りながら、札幌市が求める要求水準を満たす事業を立案し、質の高い公演やクラシック初心者でも楽しめるコンサートを実施し、幅広い層の市民へ音楽鑑賞の機会を提供できた。 市民のニーズや時代の音楽シーンを捉えた公演を実施し、当ホールの会員組織Kitara Club会員の増加につなげ、新たなクラシックファン層の拡大に努めた。 財団の中期経営計画重点取組項目に位置付けられている「連携による特色ある事業の展開」に注力し、特に財団他施設との連携事業を強化し、当財団のメリットを生かした様々な事業を展開することができた。 hitaruと連携し公演をはしごするスタンプラリーなど親しみやすい広報連携も実施し、他施設のファンを取り込み新しい客層の開拓にもつなげることができた。 当ホールが初めて実施した全国4館ホールとの連携による共同制作事業では、他館の事業制作のノウハウを学ぶとともに、創造性の高い公演に地元音楽家を起用することで地域の音楽活動の活性化を図ることができた。 その他、観光、福祉などの様々な分野との連携事業を実施し、音楽がより広い分野にて活用されるように取り組んだ。 障がい児向け音楽ワークショップや0歳児から入場可能なコンサートの回数を増やして実施するなど社会包摂を意識した運営に積極的に取り組み、あらゆる人が身近なものとして芸術文化の魅力に触れ、楽しむことができる機会を提供した。 国内外の音楽大学と連携して地元音楽家や若い演奏家の活動支援などの事業も継続して実施し、次世代を担う人々の育成支援を目指した事業を展開することができた。	

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な管理運営がなされている。 リハーサル室は、利便性向上に向けた取組を継続することで、計画値より高い稼働率となったが、ホール施設の稼働率や総入場者数は計画値を下回っているため、引き続き多彩な公演やその魅力を発信するSNS等を効果的に活用した広報により、目標値達成に向けた取組を行っていくことが求められる。 各主催事業では、今年度より他館との連携事業を実施し知見の共有を行ったほか、質の高い多様な公演を実施し、市民へ音楽鑑賞の機会を提供するとともに、地元音楽家への活動支援や世界的音楽家からの指導を受けることができるセミナーを実施するなど、音楽文化の普及・人材育成にも力を入れていることは高く評価できる。 このほか、職員のスキル習得のための実践的な研修を定期的実施し、利用者意見を業務改善や施設管理に反映させ、施設の安定的な運営やサービス向上に努めており、日頃から利用者の声を大切にする姿勢は、前年度に引き続き高水準の利用者満足度を維持している結果からも高く評価できる。	経営状況においては、更なる収支の健全化のため、利便性の向上に向けた取組を行い、施設稼働率の向上等収入増加に努めていただきたい。併せて、経費削減により収支改善を図るよう努めていただくほか、見直したスポンサー制度の情報発信を積極的に行うなど新たなスポンサー確保に向けても期待したい。 また、総入場者数について、計画値及び要求水準に達していない状況である。改めて、市民ニーズを検証するとともに、より創意工夫ある事業の展開に努めていただきたい。 引き続き、クラシック音楽等に触れる機会が少ない市民にも親しみやすい事業の実施等により、若年層や新規鑑賞者の獲得に努めていただきたい。